

案因緣主善男子辭如坏器則易破壞衆主吏  
卒亦復如是既喪卒已是衆苦器辭如大樹華  
葉繁茂衆鳥能壞如垂乾草小火能燒衆主吏  
卒為苦於壞亦復如是善男子智者若能觀苦  
八種如聖行中當知是人能斷衆苦善男子智  
者深觀是八苦已次觀苦因者即麥天明是麥  
天明有二種一者未來二者未來財未來財二  
俱是苦是故當知麥天明者即是苦因善男子

# 「落ち穂拾い記」④

## 敦煌写経 ②

図版①



図版①部分



図版②

中国との国交回復が成立し、日中の人の往来が可能になるにともない、中国の方も仕事として来日される方が次第に多くなった。80年代中頃であろうか、中国の新刊書籍を扱う馴染みのT書店の社長から面白い物があるとの電話を受け出向いた。近代中國の画家の作品と西域の写経や残紙類を見せられた。数件の写経類には、目を奪われた。楷書以前の書風を示す写経の断簡類で最も美しいと感心した。その前に、コピーをとり自分用の資料とした。(後にこの70余りの残巻は、「国語」という書物の一部であり、裏面には六朝期の暦に関する記述があることになり、その前に、コピーをとりこの一連の数件の写経残紙類は、その後、青山杉雨先生に譲られたと。すぐに西川寧先生がこれらの資料に相当興味を示され、しばらく熱心に研究されたことを後日談としてT社長から聞いた。青山杉雨先生没後、これらの資料は、敦煌研究院に寄贈され、2008年に謙慎書道会開催の『日中書法の伝承』展に陳列された。この写経残紙資料にあれこれ携わり、T社長の手元を離れるときに、北涼写経の断簡の一部8行分を頂いた(右頁・主国版)。小さな140字ほどの写経であるが、十数倍に拡大してもその美事な筆の抑揚は変わらない。今はこれを宋版経の紙背紙を用いて、小品の軸装に仕立て楽しんでいる(図版②)。表紙には、「繁」字を拡大して示した。

伊藤滋(書翰名・木鶴室)

# 書道芸術院

## 令和の群像 (2024)



第75回記念書道芸術院展「龍跳虎臥」

渡辺柱雲 書

### 「漢字と金文と…」

4歳から書道教室に通い始め、小学校5年生の4月から種谷扇舟先生・萬城先生に指導して頂いている。気付けば筆を持ってから半世紀。

その5年生の白扇展で、人生初の拓本を見た。恐らく強烈な印象が残ったのだろう、その後の漢字テストで「将」を旧字体の「將」で書いて×をもらった。拓本にあった「將」の字は旧字体であつたため、それを覚えてしまっていたのだ。漢字の字形は変化してゆくものと認識した瞬間であった。

その後、大学受験の勉強をしていた時である。当時飯田橋の日中友好会館の中についた中華書店で、私にとって衝撃的な本に出会った。白川静先生の『甲骨文の世界』と『金文の世界』である。漢字の成り立ちが、甲骨文や金文の文字の世界では手に取るようになる。古文字に魅了されるきっかけであった。その後、大学に合格した時に「書道を専門で学ぶならこんな本が必要だらう。」と従兄がプレゼントしてくれたのが、なんと白川先生の『字統』であった。私の宝物の一冊である。

その後の教員生活でも漢字に関わるエピソードがある。国語の授業でのこと。中島敦の



渡  
辺  
柱  
雲

『山月記』の中で、たった1字だけ他と違う「おもう」の漢字が使われている。虎になつた主人公の李徵が、人間としての自分と決別する時に使われている「懐(おもう)」である。

この字は死者に涙を注ぐ意で、金文で書くと目から涙がこぼれていく形になる。作者の中島敦はこのたつた一文字の漢字で、李徵の感情を明確に表現したのだ。金文を勉強していたからこそ、生徒にその凄さを伝えることができた。私は芸術院展以外の展覧会は、現代詩を書いて出品している。扇舟先生の薦めである。古文字と出会い漢字の面白さを知り、漢字作品を出品する道を残してくれた先生に感謝している。

教員生活を経て、現在、私は毎日書道会の事務局に勤務し、主に毎日書道図書館の担当をしている。図書館で仕事をすればするほど今まで見たことがない古典が未だに有ることに愕然とさせられる。そんな未知だった古典を、戦後の書道会を牽引されてきた先生方は臨書解説を残している。今ほど娯楽の無い時代であったにせよ、その書に対する情熱は凄いとか言いようがない。不勉強を猛省させられている日々である。特に仮名が苦手で、必要最低限の勉強のみで避けてきてしまつた。審査会員になつた人でも競書が出せるようになつた今、「今こそ勉強する時だ!!」と自分を鼓舞する日々である。

## 新年おめでとうございます

令和6年辰の年となりました。

コロナも終息に近くなり、日常が戻つて来ましたが、

外国からの観光客で賑わう全国各地の光景には戸惑うばかりの昨今です。

昨年は、ウクライナに続きイスラエルとハマスなど、過酷な国際情勢に衝撃を受けましたが、大谷翔平選手や藤井聰太八冠などの若い人のめざましい活躍と発展には心が躍りました。

書道界では、毎日書道展が本年、記念の75回展を迎えることになりました。それに伴い、特別展示や記念巡回展も全国5会場で開催されます。本院同様、少子化や書道離れに高齢化などで様々な問題を抱えてはいますが、私たち書に携わる者は、少しでも書の魅力を発信し続けて、たくさんの人々に見ていただき、振興を図るべく努めなければなりません。

書は素晴らしい世界です。それぞれが自分の書に行きつくまでは長い時間がかかりますが、それだけの時間を持つだけの価値があるものと信じています。

本年、全国学生展は75回記念展となりました。本院には学生展から育つて来た現在の役員もたくさんいます。本展同様、学生展をご協力ご支援をよろしくお願ひします。

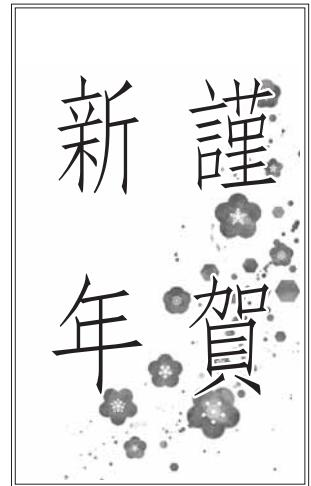
辰年は躍動の年とも言われますが、落ち着いて書に打ち込める世の中であつてほしいと思っています。今年も、書道芸術院は役員一同、誠意をもつて努力、精進して進みます。

皆さま方の、一層のご協力を願いし、新年のごあいさつといたします。

令和6年元旦

公益財団法人書道芸術院理事長

下谷洋子  
役員一同



# 書のひろば

理事長 下谷洋子

明けましておめでとうございます

令和6年辰の年となりました。

新しい年が、皆様にとりまして平穏な幸多い日々でありますことを祈ります。本年もよろしくお願ひいたします。

## 第77回書道芸術院展 一般公募・無鑑査作品搬入・審査終了

11月27日に搬入された書道芸術院展

一般公募・無鑑査の作品は、12月9・10日、浅草橋の文具共和国会館で鑑別・審査が行われました。

昨年に引き続き前日の8日に、出品点数の多い漢字部と現代詩文書部は、一般公募・無鑑査の主任・副主任と審査部の正副部長に集まっていたとき、今回展の審査方針等の説明や打ち合わせをしました。

全体に出品数が減少傾向にあるため、9日の夕方には各部とも鑑別・審査は終了し、翌日漢字部・現代詩文書部のみ残務整理にあたりました。結果は既に発表し、一般公募入選以上の作品と無鑑査作品は表装の上、1月27日に東京都美術館に搬入されます。

・会期 2月6日～11日

・会場 東京都美術館

・表彰式 2月10日15時受付

浅草橋ヒューリックホール  
(他研究会等は要項確認)



院展審査主任打合せ

## 院理事監事・評議員作品互評会開催

理事監事は一昨年から、評議員は昨

年から始めた2月の芸術院展にむけた互評会を今年も12月13・14日に行いました。財団役員としての責任もあり、他部門への理解と作品の質向上のための研究会です。

役員といえども、作家同士、それぞ

れの迷いや悩みがあるのは当然、率直に意見がかわされる自由な気風こそ、本院の発展につながることだと思います。

完成度の高い作品を持参する方、草稿を何枚も抱えて来る方、様々ですが、新たな心境が窺える作品などもあり、

役員の書の力が發揮されて、2月の本展がより活性化されることを楽しみにして下さい。



一般無鑑査審査風景



評議員互評会

## 第75回毎日書道展主要人事・昇格 人事決定

12月15日、財団法人毎日書道会定例理事会が行われました。

主な議案

・第75回毎日書道展公募出品料改定  
(毎日書道展出品団体に通知する)  
従来の14,000円→15,000円に改定する

・第75回毎日書道展的主要役員  
人事決定

・第75回毎日書道展公募出品料改定  
(毎日書道展出品団体に通知する)

・実行委員長 室井玄聰  
審查部長 薄田東仙  
総務部長 渡辺美明  
陳列部長 大森哲

運営委員(本院関係)  
大字書部 川島舟錦  
前衛書部 北村白流  
各展実行各委員長(本院関係)  
四国展 川島舟錦  
東北仙台展 飯沼恵鳳  
認定他 本院関係

審査会員へ

漢字部 児玉韶光  
近代詩文書部 菊池富美子  
大字書部 朝倉希代子  
刻字部 大沼樵峰

会員へ

漢字部 引田恵華  
大字書部 高橋棟扇・前浜裕香  
近代詩文書部 上野千琇  
前衛書部 名取雅子・廣瀬幸枝

## 高野山書道協会理事会開催 第58回展主要人事決定

12月3日、東京別院にて、理事会が開催され58回展の概要が決まりました。

・第58回展審査委員長 北野摸山

・運営副委員長 種谷萬城  
・運営委員 下谷洋子

(本院関係)  
・出品締切 5月15日  
・2次審査 5月30～31日  
・最終審査 6月1日  
・表彰式 8月2日  
・展示会 8月1～15日

運営委員(本院関係)  
大字書部 川島舟錦  
前衛書部 北村白流  
各展実行各委員長(本院関係)  
四国展 川島舟錦  
東北仙台展 飯沼恵鳳  
認定他 本院関係

## 現代詩文書基礎基本講座(44)

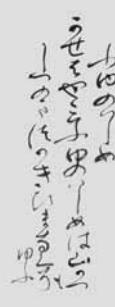
### 小竹石雲

## 前衛書基礎基本講座(20)

### 千葉蒼玄

#### ◆一宮紀伊集

##### ①拡大臨書



「ふゆの八しめ 可せ者や三ふゆ  
の八しめは山可つもしつの万徒可  
きひま奈くそゆぶ」

…風はやみ冬の初めは山賤も賤の  
松垣隙なくぞ結ぶ

##### ②一宮紀伊集風の現代詩文書

夏籠

月

村上鬼城句

〔夏籠や月ひそやかに山の上〕

村上鬼城句

藤原定家(1162~1241)鎌倉時代

代々歌人を輩出する名家の生まれで、  
「古今和歌集」や「土佐日記」、「更級日記」  
ほか多数の古典を書写した。文字を正しく書くことに主眼をおいた定家の書は、紙面に対しても文字が扁平で大きく、線の肥瘦の変化が激しい個性的な書である。

##### 【一宮紀伊集】

##### ▽特徴

- ・歌一首を3行書きにしている。
- ・行間は狭く、扁平な字形で書かれている。
- ・墨量は多めで、潤渴の変化はあまりない。
- ・平安古筆とは趣を異にした、力強く豊かな線条表現に、筆はやや短鋒の禿筆を使用した。

- ・太い線でも軽快に感じられる。そのため健康的な生彩感が乏しくならないよう少し速めに書いた。

##### ▽一宮紀伊集風の現代詩文書

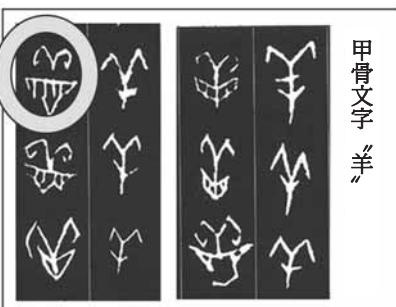
- ・今回と次回は「かな」の古筆にスポットをあててみた。王朝の流麗・優雅さとは異なる、スケールの大きさと線質の豊潤さが比較的漢字と調和しやすかった。
- ・12文字という少ない字数と、かなとの単純さを考慮し潤渴の変化はもちろんだが、同じ渴筆でも変化を加えた。緩急の変化を加えることで、より一層活力感が出てくる。また潤筆も同様で「黒」の深浅の変化を出することで、作品に広がりが出てくる。
- ・「かな」の古筆から現代詩文書を追求するためには、単純な線が单调にならないことが必要だと思う。

甲骨文字の発見(1899年)は、書道史上重要な出来事で、前衛書道に大きな影響を与えた。また期を同じくしての木簡の発見は、近代詩文書を発展させ、現代書の道を大きく開いて行く。

中島邑水先生は、書の前衛表現に取り組んだ先駆者の一人で、書の線質に特にこだわりを持った作家だ。

ひつじ年に発表された左の作品は、甲骨文字からインスピアイを受けたもので、羊の造形が直感的に感じられ、文字の持つ美しさや力強さを重視した作品と言える。甲骨文字は本来、その文字の意味を抽象化したものであるが、絵画的な要素を多く含んでいる。この作品では甲骨文字の造形でながら、深くえぐるような篆書の用筆で表現している。

甲骨文字 “羊”



羊による

蜀素帖（宋・米芾）①

※落款を必ず入れる。署名、も  
しくは○○臨(押印のみも可)



青松勁挺姿。凌霄耻／屈盤。種々出枝葉。牽／連上松端。秋花起絳烟。

特別研究部臨書課題

II (半紙普通判・縦使用) 左記掲載部分より何文字臨書してもよい。

(A・大作の部 每日晨審会員・會員サブ以内 2×6尺・金紙も可)  
(B・小品の部 半切以上半切以内金紙以内可 (A・B兼備自由))

当該古典の左記掲載部分以外も可。

〈解説〉宋の四大家といえば、蘇軾、黄庭堅、蔡襄（蔡京）を指すという説もある）、米芾であるが、米芾だけが科挙に合格しなかった。そのため、エリート官僚ばかりの士大夫社会で認められるには抜きん出た技量が必要であり、彼にとってそれは書の実力であった。蘇軾や黄庭堅が顔真卿などを尊んで個性を發揮していくのに対し、米芾は古い晋唐の名跡（とりわけ王羲之の書）を徹底的に学び、鑑識眼と技術を高めた。

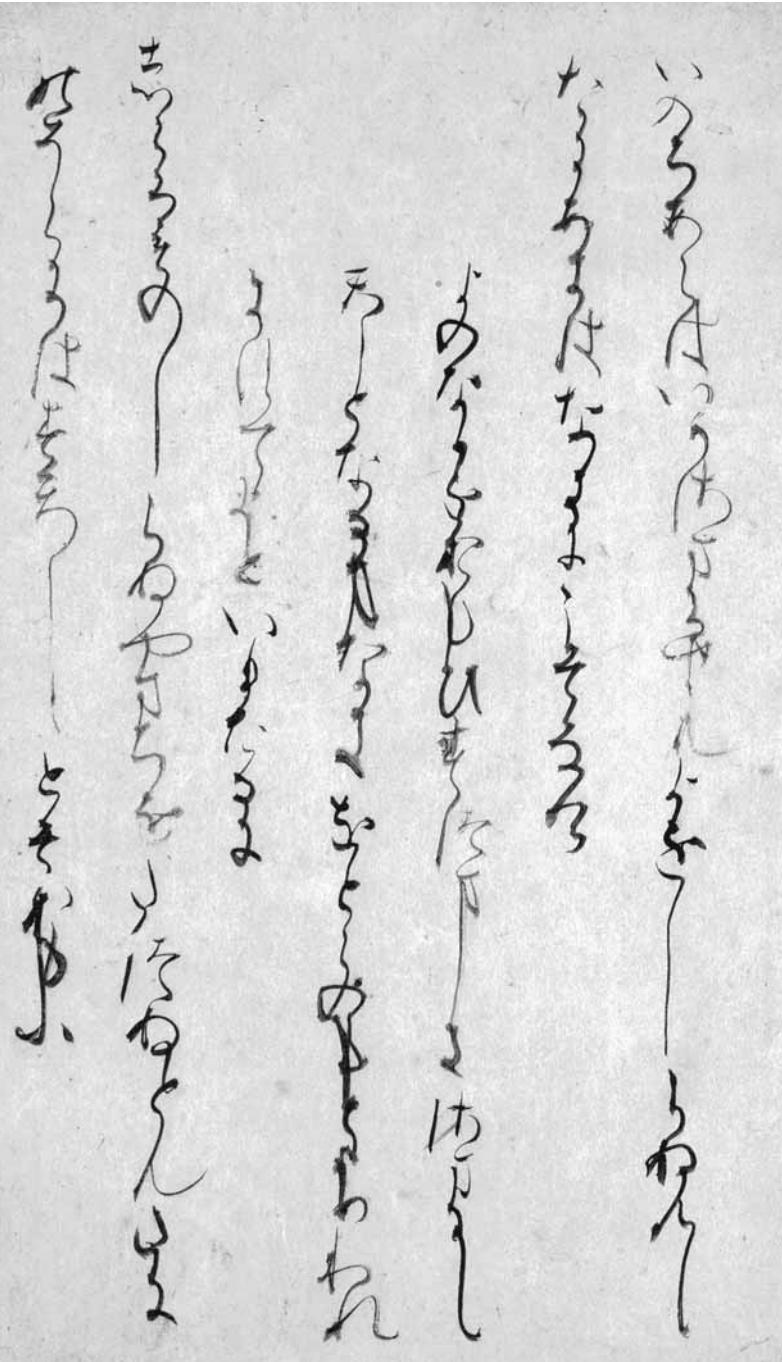
蜀素帖は蜀素（蜀で織られた絹）に書かれた自作の詩巻で、米芾38歳の時の書。荒い網地に対し、いささかの気負いと慎重さでもって書いたタテ長の行書作品である。王献之の雰囲気でまとまっており、線は澄みきって美しい。今月は8首の詩の中から、冒頭の「擬古」の3行目までを掲出した。

(編集部)  
(掲載図版原寸)

和泉式部続集切  
(云藤原行成筆)

①

〔解説〕  
「源氏物語」の作者紫式部は、一条天皇の中宮となつた彰子(藤原道長の長女)に仕え  
たが、同僚の一人に和泉式部がいた。女流歌人として有名な和泉式部の家集には正集・  
続集・宸翰本など複数の伝本系統があるが、古筆切として尊重されたのは続集である。  
その書風は二つに分かれ、第一種・第二種、あるいは甲類・乙類などの名称で区別して  
いる。今月は第一種(甲類)を掲出した。強くグイグイとリズムよく運筆したい。(編集部)



(逸翁美術館蔵)

※掲載図版・90%に縮小

(P44に見やすい図版があります)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは○○臨(押印のみも可)

## かな研究部臨書課題

(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)別紙を裁断して貼付も可。半懐紙は半紙サイズ  
に切って使用のこと。上記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)

## 特別研究部臨書課題

A. 大作の部=毎日展審査会員・会員サイズ以内、2×6尺・全紙も可  
B. 小品の部=半切½以上、半切以内(縦横自由)、全紙½以内も可  
<いずれも上記の掲載以外も可。>

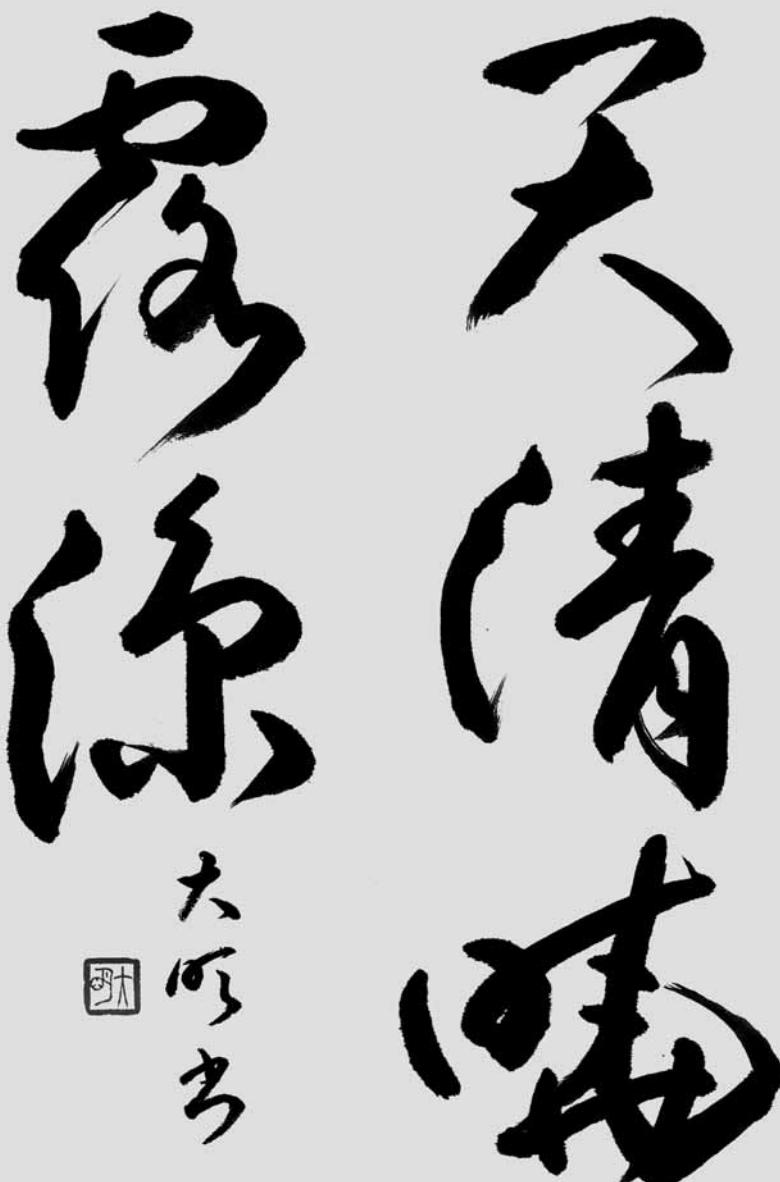
小浜大明

天清曉露涼  
(天清く曉露涼し)  
(薩都刺)

天はすみわたり、曉の露は涼しげである。

今回は行草作品です。

澄み切った空の情景を表現すべく、細めの線で表現し、余白を広くとり、明るい作品になることを念頭に置いて書いてみました。生きた「書」を書くために必要なのは、点画から点画へも当然ですが、文字から文字への筆脈を切らないように書くことが大切です。



天清曉露涼 よみ (天清く曉露涼し)

書体=自由

西川翠嵐

風清弊絶  
(周敦頤)

風清く、禍いは絶える。



風清弊絶 よみ(風清弊絶) 〈注〉「弊・絶」は書写体です。ご確認下さい。

書体=楷書

さて、新しい年となりました。  
今回の4文字は北宋の儒学者周敦頤の「風清弊絶」という言葉を選びました。本来の意は古い風習をすべて弊害のない世に、というこのとなのですが、清らかな風が吹いて災いがなくなってくれることを願って選文してみました。

今号は「楷法の極則」と言われる初唐の歐陽詢の「九成宮醴泉銘」に倣って筆をとりました。字形は縦長、背勢といわれ、楷書で特に大切な「間架結構法」がしっかりと守られています。と述べることは簡単ですが、皆さんにはまず原本を手にとられて解説を読みこみ、その特徴を知り臨書をくり返し、そこで得られた手応えを創作に生かしてほしいと思います。点画は直線的ではありますが、その中に込められている豊かな筆意を知ることが大切です。

西川翠嵐  
(周敦頤)

習い方解説 (1)

石井明子

あづさゆみ 春になりなば草の庵を  
とく出てきませあひたきものを  
(良寛)

「春になつたら、あなたは早く草  
庵から出て訪ねていらっしゃい、  
会いたく思うから」の意。

あづさゆみ  
春になりなば草の庵を  
とく出てきませあひたきもの  
を

あづさゆみ  
春になりなば草の庵を  
とく出てきませあひたきもの  
を

よみ方 あづさゆみ春に(二)な(那)りな(奈)ば(盤)草(久佐)の(乃)庵を  
と(登)く(久)出(て)て(ハ)きま(万)せ(勢)あ(会)ひた(多)き(支)ものを(越)

創作

〈注〉墨縁ぎは「会」です。

\* 料紙は半紙版(33.0×24.5cm)を使用しましょう。

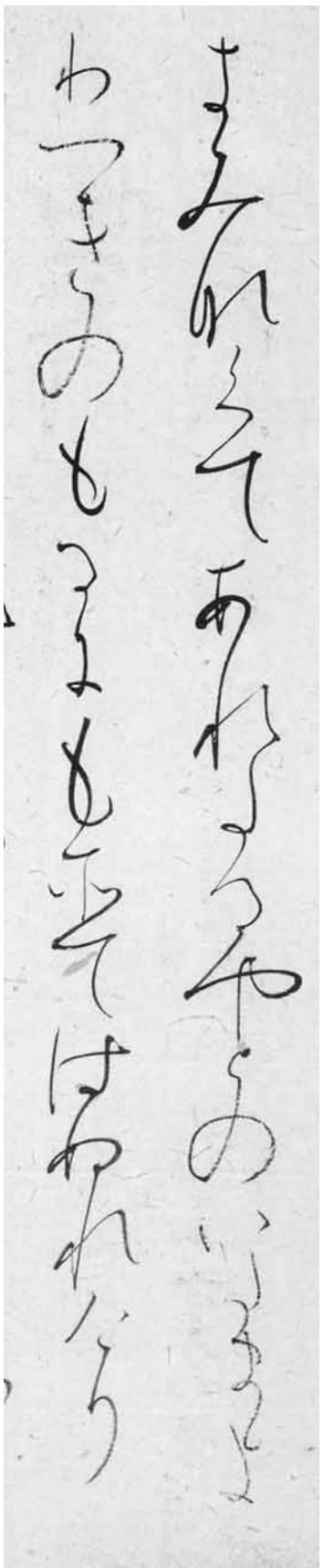
半紙、半懐紙サイズに制作するか。  
な。はインパクトが強くなりやすいの  
で、私は美しく優しい雰囲気を大事  
にしてきました。そのために紙面に  
極端に目立つ箇所がないよう心がけ  
ています。墨色墨量が過多にならない  
こと。字数によって差はあります  
が、字粒は过大過小にならないこと。  
行の長さが類似しないこと等々です。

長年の自分の癖で毎回似通った構  
成に陥り易いのでそこからは抜け出  
したいと願っています。けれど、あ  
のパターンはあの人だと思われるこ  
とも許容してよいとも考えます。一  
人の人間が考えることは無限ではあ  
りえません。

かな規定 秀級以下【2月15日締めきり】用紙 半紙タテ $1\frac{1}{2}$ (料紙可)(たて32センチ・よこ12センチ)

(掲載写真拡大120%)  
掲載写真的和歌を臨書する。部分臨書も可。  
〈注〉署名は「〇〇監」として下さい。

粘葉本和漢朗詠集



よみ方  
きみなくであれたらるやどのいたまよ  
りつきのものにもそではねれけり

歌意  
あなたがいなくなつて荒れはてた家の板間から月光がさし込んでくるのを見ると、悲しみ  
の涙が流れてしまします。

### 習い方解説 (1)

かな条幅規定【2月15日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

勝山初美選書

勝山初美

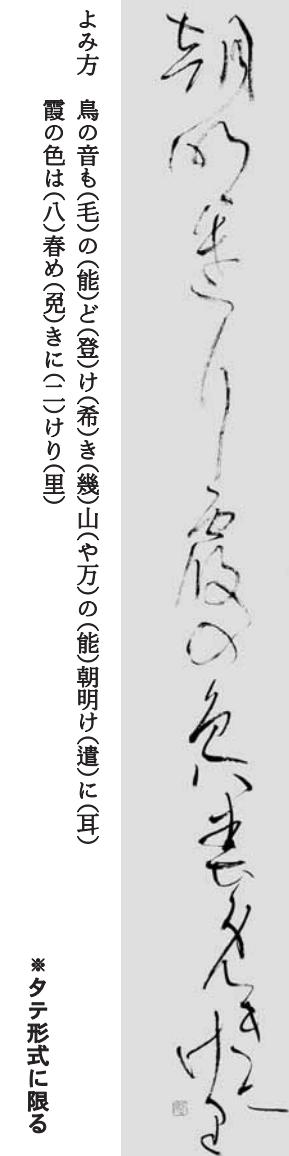
鳥の音ものどけき山の朝明けに  
霞の色は春めきにけり  
(京極為兼)

明け方の、のどかな山の様子を表  
現した春の歌です。

構成は基本の2行書きで、末尾に

「けり」を添えました。「色」で墨絵  
ぎをしています。

連綿は2文字～3文字で押さえま  
した。他の箇所は気脈を意識し、氣  
持ちのつながりを持ちながら運筆す  
ると流れが生まれます。2行目の渴



よみ方 鳥の音も(毛)の(能)ど(登)け(希)き(幾)山(や万)の(能)朝明け(遣)に(耳)  
霞の色は(八)春め(兔)きに(一)けり(里)

\*タテ形式に限る

創作

カルな動きを心がけましょう。

漢字条幅規定 初段以上 【2月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

名越蒼竹選書

### 習い方解説 (4)

名 越 蒼 竹

清朝は金石学が発展し、碑学派と呼ばれる書人を多く生み出しました。多くは篆・隸・楷書の作品が残されていますが、何紹基は隸書の書法と顔法を融合させて、独特の行草書を生み出しました。一見華やかに見える点画も、顔法による線の深みがなければ軽重浮薄に陥ります。長峰羊毛で鋒先のバネをよく利かせるとよいでしょう。



書体=自由

漢字条幅規定 秀級以下 【2月15日締めきり】 用紙 小画仙紙半切

飯沼恵鳳選書

### 習い方解説 (4)

飯 沼 恵 鳳

今日は、隸意を帯びた木簡調で書いてみました。

大意は、「遠方まで続く積雪を白く輝かせながら、冬の光がちらを照らしています」です。

木簡調ですので楽しく、身体を右に左に動かしながら、自由にリズムに乗って運筆しましょう。文字の大小や線の細太の変化等も心掛けて運筆すると、メリハリがつき、より良い作品に仕上がるでしょう。



書体=自由

萬里寒光生積雪  
(万里の寒光積雪に生ず)  
(祖詠)

## 習い方解説(4)

倉林紅瑠

月の沙漠をけらばらと  
旅の駱駝がゆきますたに

金と銀との鞍おいて

二つならんでゆきますと

「月の沙漠」より 紅瑠書

◇用紙 ハガキ大(14.8×10cm)の白紙を使用  
◇黒インクのペンを使用(ボールペン・フェルトペン可)

「注意!! 用紙の大きさに迷ひが見られます。  
用紙サイズ(ハガキ大14.8×10.5cm)を守って下さい。」

〈注〉「沙」のくんは「石くん」ではなく「せんすい」です

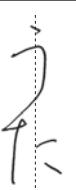
書体=自由	
月の沙漠を	はるばると
旅の駱駝が	ゆきました
金と銀との	鞍おいて

二つならんで ゆきました  
「月の沙漠」より ○○書

童謡「月の沙漠」は加藤まさを作詞、佐々木すぐる作曲により、大正12年(1923)に発表されました。異国情緒漂う歌詞と叙情あふれるメロディーが印象的です。加藤まさをが、結核療養のために滞在した千葉県御宿町の海岸の砂丘でこの歌が誕生しました。

◇「平がな」の基本一連綿②—  
連綿には意連と形連があります。連綿線でつながっている形連には、さまざまな連綿方法があります。

①基本連綿中心に書く



②終筆からすぐ始筆に  
続ける



③結びからの続け方



④左回りから右折へ  
続ける



⑤終筆と始筆を重ねる



⑥点から右折へ  
続ける



\*連綿線の長くなる場合の続け方  
⑦ふしをつけて続ける  
⑧中心移動



# 餅つき大会のお知らせ

日時 一月五日(金)十時より

場所 町内会館一階集会室

できあがったお餅は皆で食べます。

参加費は無料ですので、お気軽に

お越しください。

文責 大平 邑峰

餅つき大会のお知らせ／日時 一月五日(金)十時より／場所 町内会館一階集会室／できあがったお餅は皆で食べます。／参加費は無料ですので、お気軽に  
に／お越しください。／文責 氏名

- ◇小筆・筆ペン・サインペンなどを使用 署名は各自の姓名(号)を (掲載手本85%に縮小)  
◇用紙は普通版半紙横1/2(24.5×16.5cm) B5版コピー用紙(26.0×18.1cm)も可  
◇所定の出品券を作品の右下に貼る

# 今月のホープ作品。各部総評

NO.751

かな部 師範 七五三木和美

動きに一切無駄がなく洗練の極致である。かな美を知りつくした

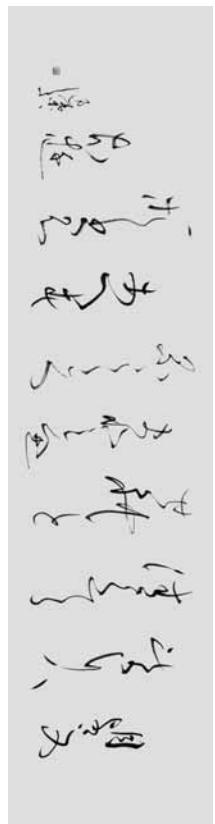
知性に叙情性が加わり美事です。  
◎かな部総評 字が過小の人が散見しやゝ残念。枚数をこなすと自然に解消します。書きこんで何かをつかみとりましょう。(明子評)



漢字条幅部 師範 田中 岳舟

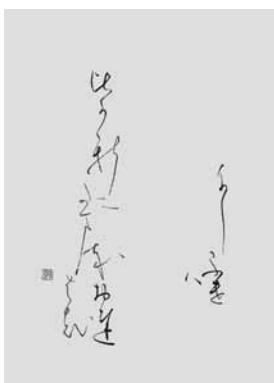
他にないしなやかなリズムに惹かれた。少々あやしい字があるが、この調子に逆筆や強さを加えたい。

◎漢字条幅部総評 変体がなの認識不足が目についた。横形式は行間の扱いが難しいが、空き過ぎも作品が貧弱になります。(洋子評)



かな条幅部 準師範 関口 芳枝

字が過小の人が散見しやゝ残念。枚数をこなすと自然に解消します。書きこんで何かをつかみとりましょう。(明子評)



漢字部 師範 藤井 龍仙

はやる心をセーブしながらも線の方向性と強弱を駆使し、生彩感漲る作品に仕上げた手腕はさすがに優秀作あり。行草は線の練度とリズム、造形感覚が一体となる研究が大切。多書が大事。(石雲評)



◎漢字条幅部総評 上級は行草書、下級は隸書に秀作が見られたが、誤字も散見。字書を調べ、草稿を作成する習慣が大切。(萬城評)

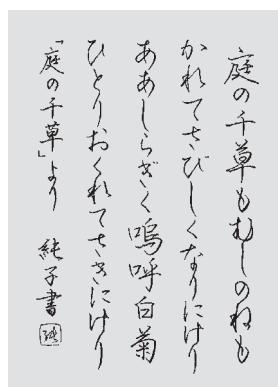


ペン字部 師範 中原 純子

柔軟な筆致が紙面全体に漂い、穏やかな雰囲気を醸す。漢字とかなの均整がとれた調和が大変美しい。  
◎ペン字部総評 「鳴」に誤字多く、残念。極度の文字の大小や無理な連綿は不自然さを感じる。ペン選びも重要な要素です。(雪枝評)



◎現代詩文書部 総評 詩文書は簡単そうですがなかなか大変です。作品集はか書籍での学習必須。  
(宗宛評)



漢字部 総評 全般的に隸書作品

に優秀作あり。行草は線の練度とリズム、造形感覚が一体となる研

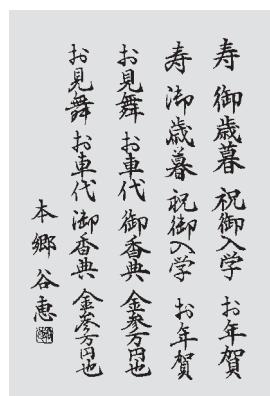
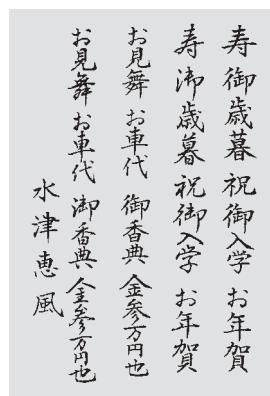
# 実用書優秀作品

選評 岩垣若翠

## ◎実用書部総評

実用という制限がある中で、様々な個性のある書風が見られ楽しく拝見しました。美しく見せるには文字の大きさや行の中心を揃えることが基本となります。

(若翠評)



特選 水津恵風  
手本にしたいほど格調が高い作。  
形狀美しく伸びやかな線質が魅力。

特選 本郷谷恵  
重厚な筆致で表現するも線にメリ  
ハリ効かせ見応え充分な作。

こ雲中土高亀千雀川真葉	宗白水玉大清月	こだ	耕雲八街	楓深竹もく朋
佳作	珠茎雲川	吉田	吉田	多胡
加笠大白岩池安藤原島井上田	茂西山水佐藤山林	及川伊勢川	伊勢川	三千代
翠紫竹綾都直子	絢葵蘭綾美嘉江和美	康江良子	裕	龍谷華惠風
陽玉鳳乃子	水龍舟奈梢	嘉江和美	康江良子	千葉
秀大蘭吉雲	S A 東總和新氣汀	もく	A I 蓮紅	伊呂
一深芳倉秀大蘭	東誠幸和日誠新和新氣汀	春汀	春城	高瑠
新大蘭吉雲	総和新氣汀	もく	蘭	高鈴木
小久木吉落奥大木下村合	薄鶴井石石石上石上	青木	山八重櫻	廣戸
萌香房町敏美鐵子	澤上上橋崎藏五十嵐	利	堀江	高鈴木
佳奈翠子	由琴洋英嘉甘雨京華	啟子	和裕	秀英
	美綠舟硯二子	美穂	幸枝	岐
	桂宏余芝雅史	穂	香	舟汀晴
	順芳幽春舟	桂宏余芝雅史	哲	前田
	名略	桂宏余芝雅史	淑	玉
		桂宏余芝雅史	子	玉
		桂宏余芝雅史	哲	高橋
		桂宏余芝雅史	淑	澤
		桂宏余芝雅史	哲	千代子
		桂宏余芝雅史	淑	マツ
		桂宏余芝雅史	哲	右

## 前衛書部(特選)

## 現代詩文書部(特選)



麗美紫雅恵  
芳江悠弦  
筆力の強弱のバランス良  
豪快な筆運びが絶妙  
色彩と構成感豊かな作  
墨量活かし圧巻の仕上がり

光和裕邑桃  
彩子子里翠  
紙面いっぱいの軽快見事  
筆先開閉に迫力あり成功  
大きめの中にも温かい線が広がる  
墨のアート楽しい力作

選評 大石仙岳

史慶音  
和加江子  
リズム良く、爽やかな作  
軽妙な筆致、表情豊か  
淡墨の優美な空間表現  
楽しい制作過程窺える  
構成好みで自然な筆捌き

和加江子  
史慶音  
抱萩紅景  
水霞子  
静かなタッチ、心地よい  
余裕ある筆致で安定感有  
字配り良く運筆の変化佳  
自在な運筆、感性豊か  
動き大きく躍動感溢れる  
筆勢豊かで氣宇壮大  
運筆のリズム良く安定作  
温かな線、風格ある  
躍動感あり運筆迷いなし

花香里  
雲里  
渓翠耀  
雨雲  
眞由美  
潤いある線で温かみある  
透明感ある墨色詩情誘う  
凝縮させた構成が魅力的  
ゆとりある筆致白活ける  
透き通る線で温かみある  
大らかで自然なりズム感

選評 熊谷宗苑

今月の

# 特別研究部優秀作品(特選)

選評 下谷洋子 種谷萬城 田村鄭雲 倉林紅瑠

## 小品の部

現代詩文書 (京橋)

田中一葉  
「恵子のうた」



田中一葉書

135×35cm

◆鍛えられた強い線から詩情が響いてくる。字形も確実で読み易い。構成や墨量の変化も巧みで、余白が美しく、緊張感のある見事な作品である。(鄭雲評)

前衛書 (宮古)

長澤紅苑  
「白による」



長澤紅苑書

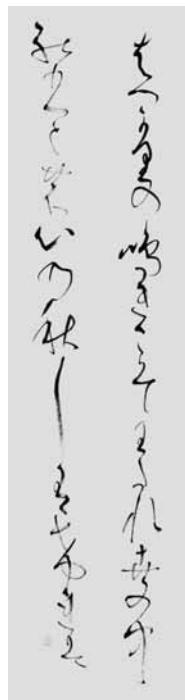
135×35cm

◆上部から下部へ展開したエネルギーッシュな筆致が紙面に躍動し、スケールの大きな作品となつた。濃墨による潤渴の変化や気迫に満ちた表現が冴え

(紅瑠評)

かな (潮音)

齋藤杏邑  
「はつかりの」



齋藤杏邑書

135×35cm

◆骨格のある線で、自然に平明に流れる。掌中にあるリズムのため、自然さが心地よく響き、見ていて穏やかな気分になる。少々墨が濃い。(洋子評)

平野笛舟臨

136×35cm

◆鋭い線質を着実に表現し、引き締った表情を忠実に捉えた臨書。文字の大小、余白の計算に一層の配慮が加われば一層の魅力が盛り込めた。(萬城評)

臨書 (千葉)

平野笛舟 「九成宮醴泉銘」

蓮「生己八紅八澄墨  
蓮か大未街瑠街春綠  
紅な」  
本吉多原三土井相  
田原田河島浦屋  
美雪進彩景汀樹仙泉翔  
桂春春英恵天絢甘  
進彩景汀樹仙泉翔水雨

八宗誠和  
和石崎  
大友  
秀舉  
龍仙  
月華  
前衛  
「漢字」  
(臨書の部)

蓮紅瑠  
松本  
倫果  
喜代花  
香藤井  
大雲  
奥川  
白井  
澤藤井  
四枝  
花香藤井  
大宗苑  
奥村  
白井  
澤藤井  
四枝  
花香藤井  
「漢字」  
(臨書の部)

創作の部  
(特選候補者)  
(創作の部)

創作の部  
(特選候補者)  
(創作の部)

漢字 - 6点  
かな - 2点  
現代 - 20点  
漢字 - 34点  
かな - 3点  
漢字 - 37点  
前衛 - 12点  
漢字 - 11点  
前衛 - 1点  
漢字 - 1点

創作の部 (41点)  
漢字 - 6点  
かな - 2点  
現代 - 20点  
漢字 - 34点  
かな - 3点  
漢字 - 37点  
前衛 - 12点  
漢字 - 11点  
前衛 - 1点  
漢字 - 1点

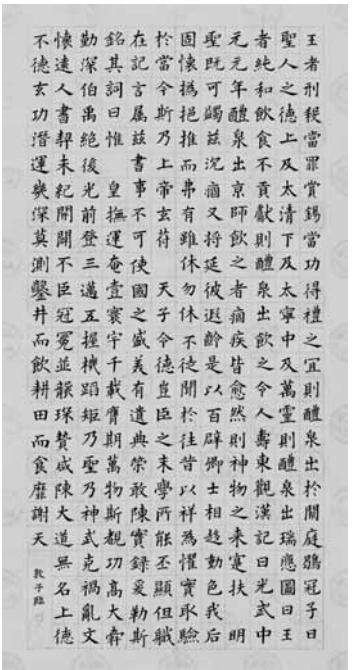
総出品点数  
78点

小品の部

# 大作の部

前衛書 (紅瑠)

相澤敦子 「九成宮醴泉銘」



135×70cm

前衛書 (月華)  
中 塩 朱 華  
「朝焼け」



140×60cm

中 塩 朱 華 書

◆宿墨による滲みと瞬発する飛沫が大きなリズムを生み出している。躍動感と美しい墨色の調和がすばらしい。（紅瑠評）

◆線質、字形とも原本を詳細に鑑賞した形臨。長時間に亘る集中力の継続は見事。作品全体の構成も見事で完成度が高い。（萬城評）

部分拡大

王者刑殺當罪賞  
聖人之德上及太  
元年醴泉出京

相澤敦子臨

現代詩文書 (玄穹)  
尾形紅霞  
「宮澤賢治のうた」



180×60cm

尾形紅霞書  
◆縦2行の構成、通貫性があり文字も書き合  
う。大小の変化と墨の潤滑を鮮明にすること  
で奥行きある表現となつた。線質に味が欲しい。  
（鄭雲評）

（鄭雲評）

◆線質、字形、章法が着実で、観察力が細部にまで行き届いた形臨。集中力の継続、精神力の強さに敬意を表します。（萬城評）

竹浪叙舟臨

135×70cm

臨書 (千葉) 竹浪叙舟 「九成宮醴泉銘」

創作の部

漢字—1点  
かな—3点  
現代—6点

前衛—13点  
漢字—19点  
かな—3点  
現代—6点

漢字  
英峰 佐藤 桂香  
容洲 阿部 邑里  
大拙 阿部 俊吾  
墨洋 高橋 栄杏  
篤信 三浦 朱鳳  
月華 相馬 朱郷  
「前衛」  
青蓮 伊藤 有津  
八戸 市川 紫泉  
松延 藤原三枝子  
「現代詩」  
もく 青木 藤漣  
「かな」  
浅野 涌翠  
澄春 新行内芳蘭  
素雪 坂本 芳博  
高橋 金井みどり  
「漢字」  
伊田 鈴木 英晴  
「かな」

総出品点数  
36点

漢字研究部  
(九成宮醴泉銘)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



下 津 舟 楓

則 醴  
泉 出

醴 泉 庭 鶩  
宜 則

醴 泉

鶩 冠 庭

於 關 庭

惠智玉美蒼京  
子景泉千風花

勝江臨  
刑殺

王者刑  
殺當罪

於 關  
庭 鶩

則 醴  
泉 出

王者刑  
殺當罪

寬奎峰亞英勝  
子心子希樹江

王者刑  
殺當罪

則 醴泉  
得 禮

王者刑  
殺當罪

冠 子

王者刑  
殺當罪

美叙俊恭紅  
和孝美亮子雨

王者刑  
殺當罪

出 於 關  
泉 出

王者刑  
殺當罪

冠 子

王者刑  
殺當罪

惠華良惠永  
美真子子璫美

漢字研究部 特選 下 津 舟 楓  
九成宮醴泉銘の結体、用筆等を良く理解しました。上で書かれた見事な臨書です。全体的に落書きと安定感ある秀作ですが、落款が少々細く小さいことが気になりました。

◎漢字研究部總評

力作が多数寄せられたことを嬉しく思います。しかしながら、この古典の大きな特徴である背勢の字形を理解せず、向勢で書かれた

作があつたことは残念です。その他、右上の転折を書く時、一旦筆を離して書いている方がありました。が、縦画の始まりが大きく上方に出ているのは、細い線で書かれた横画から縦画に方向転換する際、筆の傾きが変わることを理解して下さい。

(大明評)

# かな研究部 (関戸本古今集)

選評 佐藤 希雲

今月のホープ作品



篁里理  
右美扇

春恵  
朗  
華水

美瑞恵  
和華子

眞砂  
子美悠

た橋和八堺福紅  
か雅平街山瑠秀  
梅伊井石池藍作  
佳田代玉英翠悦和白子泉二径子美珠

高華青春高こ華澄水大上玉たの千上澄華こ遷菊椿塙竹  
井仙湖汀崎だ仙春茎雲泉川か書葉泉春仙だ春  
吉前北上根立山岩清驚中森猿坂猪早字菊北爪新安  
田川嶋利本花口瀬水山村田渡本又部田地爪内  
新井安嶋眞沙子和美悠舟シゲ鍛篠里理  
春恵和華水和華  
か仙湖子子紗翠園舟梢子右美扇朝華水和華舟

玉松高た一白あたの上白一 A 立華高沙紅白紅秀玉光清潮清大一大竹青上書高  
泉紅崎か弦香露か泉露心 I 精仙真莉瑠露瑠歌川彩月音月阪心雲原湖泉游井  
渡遊矢本宮松浜萩野錦寺千竹武瀧高須佐櫻境齋小小黒久北叶小大  
邊佐口柳上内村野原口織原田井口木原田名藤野田藤林板柳根崎野谷  
美久美登す百洋子登りよこ  
信紅登小智成陽永洋美さ恵白香一み合慶香光綾龍和杏嘉萩素竹登里希  
代雅江草子子香華江子子舟子奈貞子邑江江子葉里希

光一さま  
形心つく  
人  
浅秋明青  
川葉石木  
みなミ麗  
江工子連

干こ明華こ明華八中蓮紅高孫東上も富一誓麗玉有墨若竜前  
漏だ漢仙だ香仙街川紅風真韻向泉く貴草田澤松秋隣松泉橋  
渡吉山山矢柳村三本船廣林昌根西中中富田武武高高閨鈴杉須島柴小工木神加加葛加柏小荻大大入五飯浅青  
田本根部瀬上田田津瀬山岸川村野田中山田橋木山質千工藤木田松藤千澤外由  
泰桜鶴美美香琇佳蒼美代幸奈芝正藤裕一美瑠耶花宗美雅マ睦明一美洋洋子和純典翠雅恵夏和玉昌淳悠佳洋和玉  
江子櫻苑華月舟雪子枝子香子象子琴子翠衣源楳子泉ツ心恵起子香子子陽芳美峰子子藻子花榮子江枝

伊富高春八声華大春竹聖大蒼蒼高墨泰大秀蒼華祥東  
呂貴汀生香祥拙汀美堂雪原陽真花香雲歌陽仙紫向  
鈴菅神下篠三佐佐佐櫻佐佐齋込木小小高小熊桐北蒼川河川河神金葛片加小奥岡岡大梗鷄植岩今井伊伊磯石井池池飯飯安東  
木原宮田田條茂藤々田久久久田山暮口木武池井谷村野元村崎合尾田城桐瀬野川村野西田澤田崎閨上藤藤貝森阪田治塚島藤  
加惠木間間曾登喜由  
英昌玉代美裕明陽和智洋澄舞美美智泰玄直宏溪志靜茱幸乃和美真百桃晴朱麗紀鶴一和琴紅薑心静幸悦清博玲幸朱郁ミ楊花  
硝子子子祥子子舟子華夢艸紀子香城子風子代仙子佳教惠優流代美星流子子美子舟雨葵華香子子耀子奈子音子子風子

遷竹大こ昌竹幸無祥や蒼華八梓高澄も白生「澄長椿華正一麗玉青高書氷春洞大」天小わ春清高掃上や天清玉青澄幕玉竹麗  
外原阪だ苑美扇門紫ま翠祥街江真春く露大「春月翠祥華弦澤松蓮崎泉壑汀書雲」璋映か汀月真雪泉ま璋月川峰春張川扇澤  
127渡六吉吉横山山山水水三松松增本古藤深深平平樺林早長橋沼二永永中中中中中中豊都渡德鷁津塙田本玉口山原高橋根尾藤  
名邊波野田山本中田口野澤浦永尾田郷谷本坂澤山山口坂谷本田通井并山村林里里嶋丸子江淵田本玉香れ美  
氏姓羅  
名美寧彩翠蘭梅清律城智小珠希華谷美善清佳だつ玉美聖紅奎麗伯悦知寛清亮星愛紀淳亞李子子勝理子子希花子子子代苑雲子子雨  
略苟玉祥綾舟香玉京子子子樹鈴子秀恵子惠洗月子子葉子朋翠霞心子泉子子香子子勝理子子希花子子子代苑雲子子雨

◎かな研究部総評  
関戸本にも慣れてきたよう、安心して見られる作品が増えました。さらに古筆の特徴を把握し、自分なりのとらえ方で表現してもらえた、と思います。

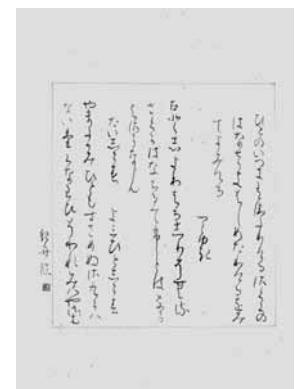
(希雲評)

かな研究部 特選 八木橋 紀舟

丁寧な運筆で最後まで書き切っています。空間が美しく、静けさが心地よいです。今後は線の強さを身につけ、墨法の研究まで進んでいく下さい。

八木橋 紀舟

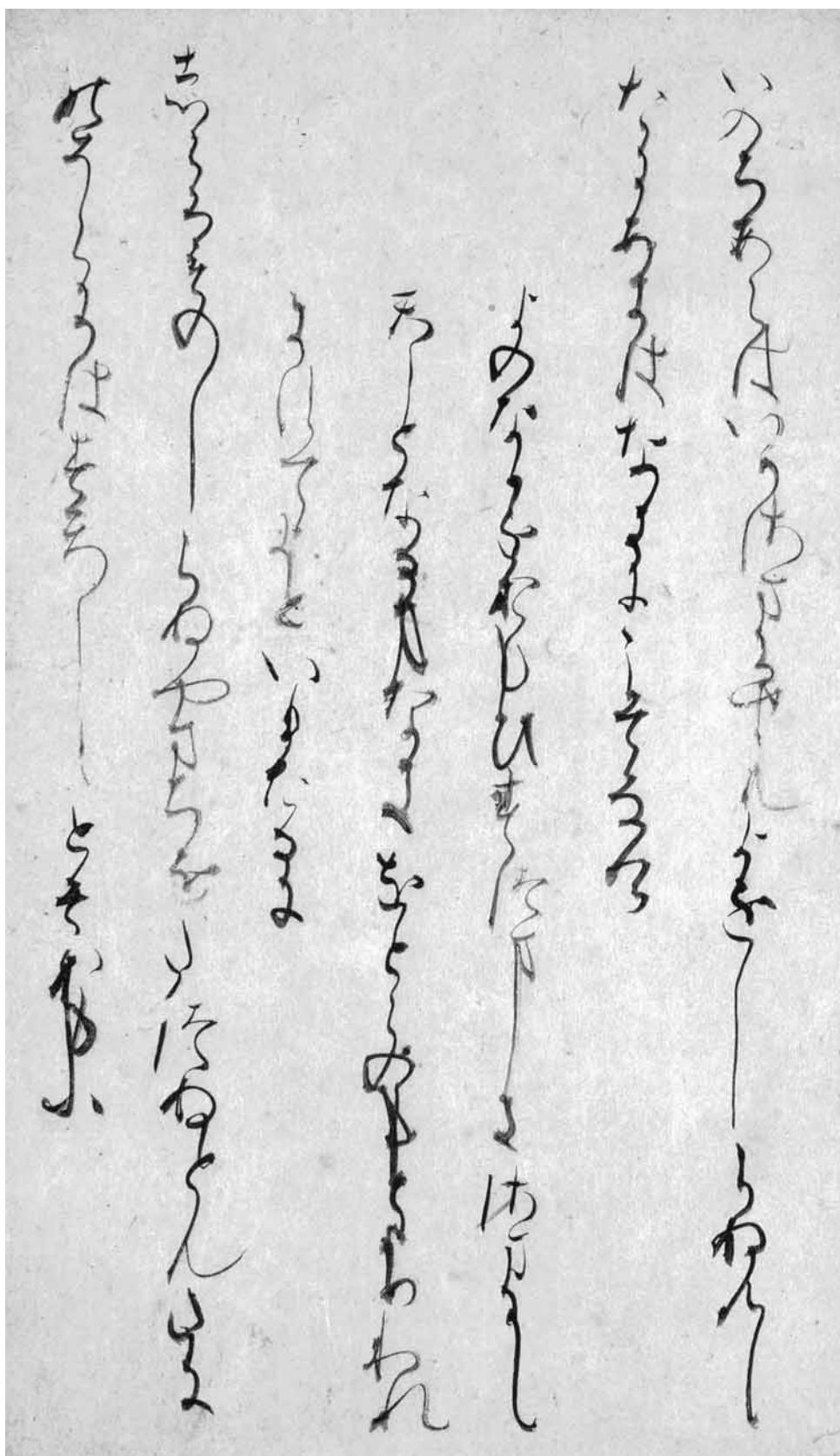
かな研究部成績表



## 令和6年（公財）書道芸術院 年間行事予定表

月	日	芸術院行事	日	展覧会関係	
		内 容		内 容	場 所
1月	5	仕事始め	4～9	現代の書新春展	セイコーハウス銀座ホール (旧和光ホール)
	27	第77回展審査会員・審査会員候補(作品搬入)	4～9	現代の書新春展100人展	セントラルミュージアム銀座
	28	大賞選考			
	29	春華賞選考			
2月	4	第77回書道芸術院展陳列、評論家の眼、記者会見	16～19	第55回現代女流書100人展	日本橋高島屋
	6～11	第77回書道芸術院展		併催新進作家展	
	6～11	第75回記念全国学生書道展			
3月	10	通常理事会			
4月			9	毎日書道展事務局合同会議	
5月	18	監査・通常理事会（院事務所）	13～14	第75回毎日書道展 会友公募受付搬入	毎日ホール
			24～26	第75回毎日書道展鑑別	国立新美術館
6月	8	定時評議員会			
	22	通常理事会（院事務所）			
	22	第78回書道芸術院展運営委員会、実行委員会	27	第75回毎日書道展対策委員会	国立新美術館
			28～30	第75回毎日書道展審査	国立新美術館
7月	1	学生展要項発送	3	第75回毎日書道展会員賞選考	国立新美術館
			4	第75回毎日書道展大臣賞選考	国立新美術館
			7/10～8/4	第75回毎日書道展	国立新美術館/東京都美術館
	21	第75回毎日書道展書道芸術院祝賀会	21	第75回毎日書道展表彰式/祝賀会	ザ・プリンスパークワー東京
8月	1	秋季展締切			
	8	秋季展下見会			
	10～15	夏季休暇			
	18	単位認定講習会（岡山県）			
	20	秋季展審査			
9月					
10月	7	秋季展陳列			
	8～13	秋季展			
	12	秋季展表彰式、研究会			
	13	秋季展撤回			
	23	第76回全国学生書道展作品搬入			
	10/30～11/4	第76回全国学生書道展審査			
11月					
	23	創立記念日			
		通常理事会10時30分～			
		講演会13時30分～			
	26	第78回書道芸術院展(一般/無鑑査)締切			
12月	7～8	第78回書道芸術院展審査			
	27	仕事納め			

★P7の「和泉式部続集切（伝藤原行成筆）」の課題を少し拡大（110%）して示しました。ご活用下さい。



予告

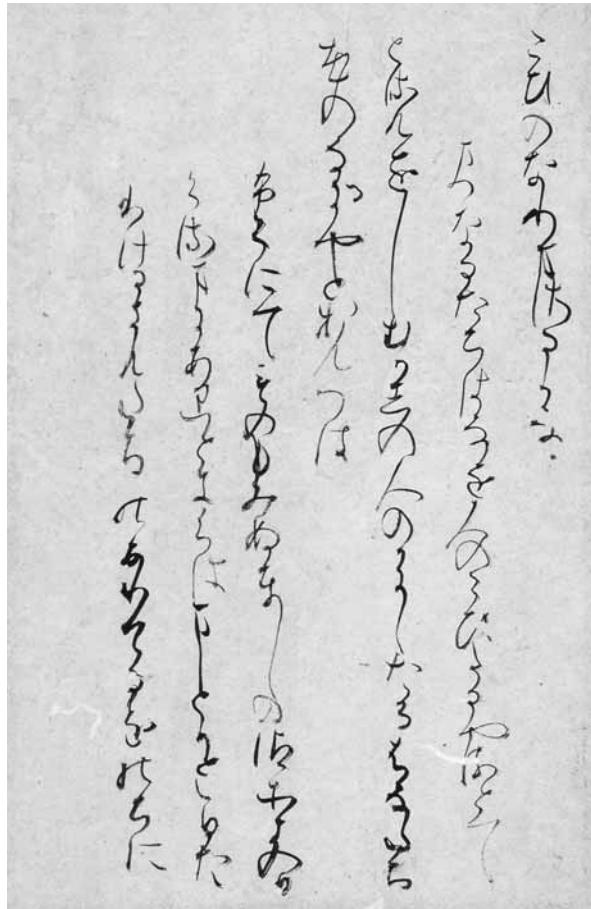
2024・2月号(754)の「古典鑑賞」「古筆鑑賞」の課題

(3月15日締切)

古筆鑑賞

239

和泉式部続集切 (伝 藤原行成筆) ②



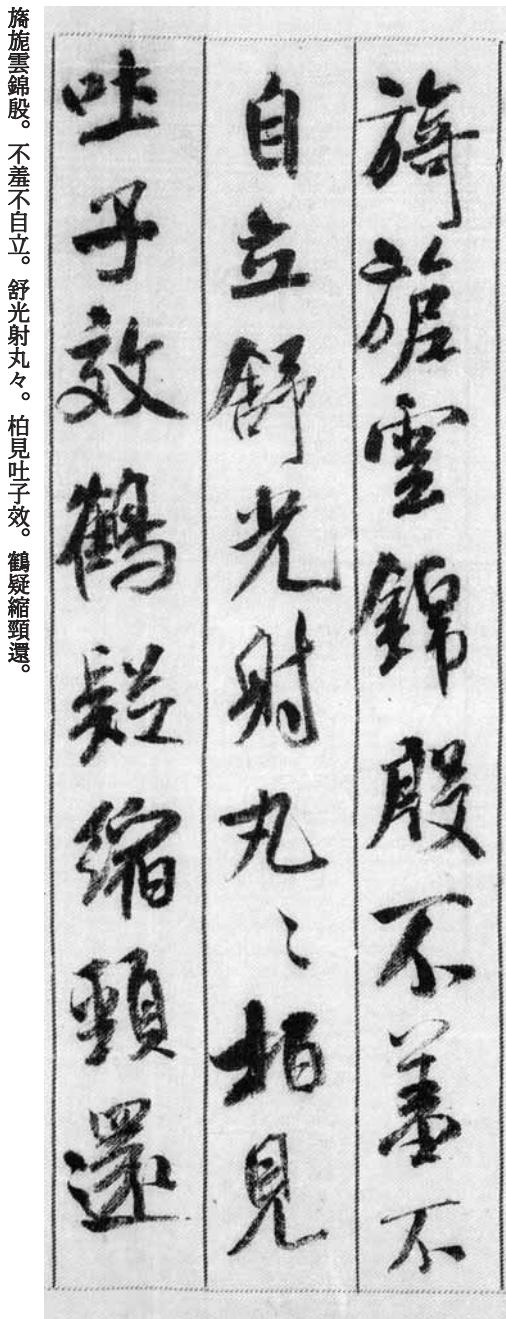
(掲載図版・60%に縮小)

（よみ）  
こひのなりまさるかな／まへなるたち  
ばなを人のこひたるやるとて／とるも  
をしむかしの人のかにゝたるはなたち  
／花のなにやとおもへば／ぶくにても  
のもみぬとしの御そぎの日／くるまに  
ありときくはまことかとゝひた／りけ  
るきんだちのありけるをのちに

古典鑑賞

465

蜀素帖 (宋・米芾) ②



(掲載図版・70%に縮小)

● 篆刻

【2月15日締めきり】

〈出品規定〉

① 篆刻 (ア) 課題による語句

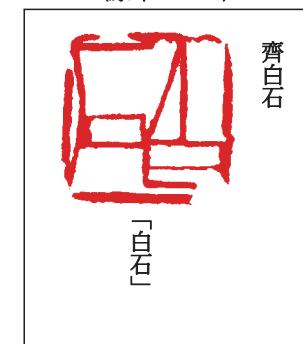
(イ) 原印自由  
(出品の際、原印のコピー添付)

② 創作 語句自由

○印面の大きさは2.3cm(八分角)以内とし朱文、白文自由。

○印鑑は市販のもの、半紙横々の大ささに切ったものも可。  
○応募は①か②のどちらかとする。

〈原印コピー〉



○出品方法  
用紙の右側に押印し、左側に印影の説文を明記、並びに落款(氏名)を入れる。

昭和五十年一月二十七日第三種郵便物認可  
令和五年十二月二十五日印 刷  
行  
行  
發  
行  
行

(毎月一回一日発行)

書道芸術

第七五三号

751号篆刻優秀作品

選評 大沼樵峰

篆刻特選 平塚由香

(篆刻)  
特選  
秀作(60章)  
白雲 平塚由香  
大雲 小沢華仙  
芳琴 小野寺幸喜  
蒼原 庄司櫻空  
佳作(60章)  
新栄 加藤万丈  
大雲 鶯山美梢  
木の 櫻井恵華  
生大 木遊雲  
石心 遊雲  
成田 研治  
吉原 進  
(選外2名氏名略)  
大綱 片岡豪峰  
遊雲 中川研治  
石心 遊雲  
成田 能喜  
吉原 趙雲  
(選外1名氏名略)  
入選(60章)  
慈空 坂本覺山  
富見 野木紫蘭  
糸仙 藤井龍仙  
吉田 惠弦  
(選外1名氏名略)  
入選(60章)  
高岡秀汀  
高岡秀汀  
橋本清麗  
やま橋本  
(選外1名氏名略)  
生大 中昌義則  
中昌義則

(創作)  
特選  
秀作(60章)  
慈空 坂本覺山  
富見 野木紫蘭  
糸仙 藤井龍仙  
吉田 惠弦  
(選外1名氏名略)  
入選(60章)  
高岡秀汀  
高岡秀汀  
橋本清麗  
やま橋本  
(選外1名氏名略)  
生大 中昌義則  
中昌義則



「東笙」

吳讓之の線質を一番しつかりとといえたら好摹。

創作特選 中島義則

安定した刀刷き。木偏が二つなので畳字を使っても良かったか。

◎篆刻部総評

創作の部の作品に素晴らしいものがたくさんあり、見ていて楽しかった。一頃でも多く彫って、自分のスタイルの確立を。

(樵峰評)

「朋子」

高岡秀汀

今月の注目作



令和五年十二月二十五日印刷  
令和六年一月一日発行

定価 1部 七五〇円

1部	79円
2部	95円
3部	103円
4部	119円
5部	135円
6部	151円
7部	167円
8部	183円
9部	199円
10部以上	送料免除

送 料

1か月の購読部数が

ご連絡等は  
月曜日～金曜日 10時～16時 の間に  
お願いいたします。(土・日・祝日は休日)

電話(03)38862-1954  
FAX(03)38862-1957

101-0031 東京都千代田区  
東神田1-16-7  
東神田プラザビル3階  
東神田プラザビル3階  
振替 00150-4-1350-0588  
電話 (03)3862-1954  
FAX (03)3862-1957  
ホームページ <http://www.ljms.co.jp/nogai/>

◎郵便物・清算・送金・一般事務等は